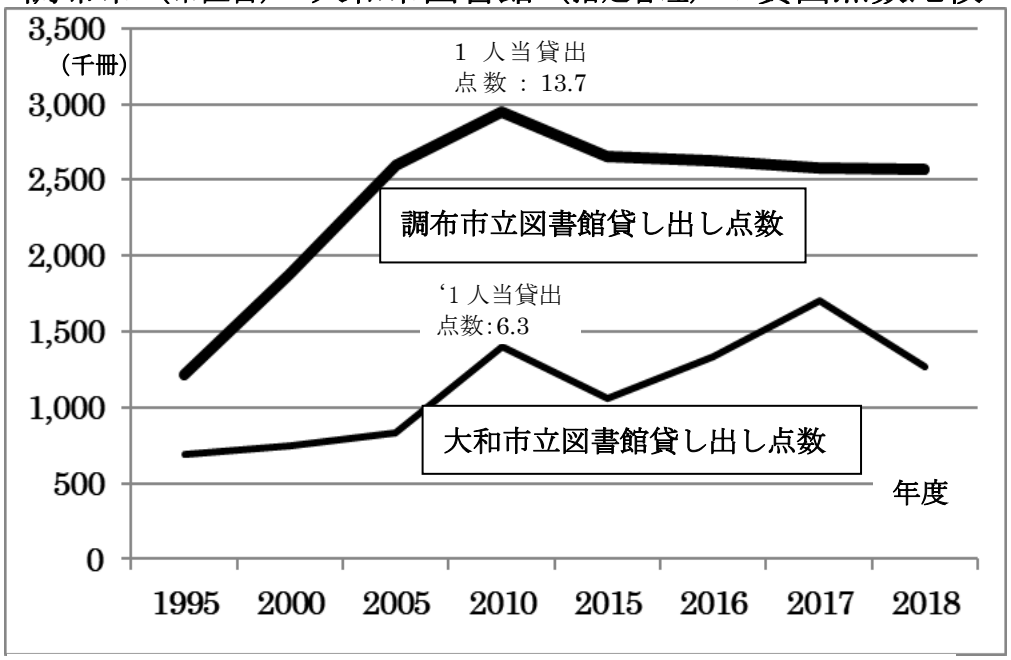
調布市（市直営）・大和市図書館（指定管理）の貸出点数比較



注:2018 年　大和市人口:235千人　　調布市人口:230千人

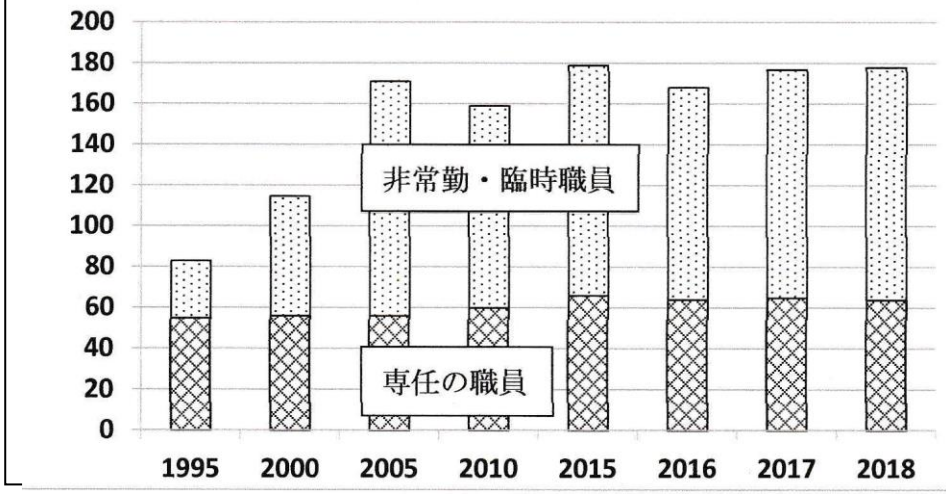
・方針:分館網の整備・充実をすすめることにより、いつでも、どこでも、だれでも気軽に利用できる市民の書斎であり続けるとともに、地域に根ざした市民文化の創造に寄与するため、市民の参加と協働を得て、積極的な図書館活動を展開する。
・1970年代には分館を地域ごとに順次整備。図書館組織網に力をいれ**現在11館**。
・司書の専門制度を導入。専任の内司書の割合は 80%を維持。2010 年度から 70%
・資料費が下がっても貸出点数は大きくは下がらない。

調布市図書館のポイント

大和市図書館のポイント

・1995 年度には**中央館1館と分館4館を整備**　図書館システムを形成。
・1982 年には地上3階地下1階の中央館建設　2005 年以降分館記載なくサービスポイント4となる。 この頃から窓口委託が増え、現在は指定管理運営。’18 年から中央林間、渋谷の分館2館が指定管理でオープン。
・2016 年4月　現シリウスの図書館建設　委託運営に切り替え 11.3 新館オープン
・資料費は 1995 年度以降 3,500 万円代。2015 年には資料費6千万円　2017 年から 4,300 万円となる。貸出点数は委託後伸びたが、2018 年には低下。

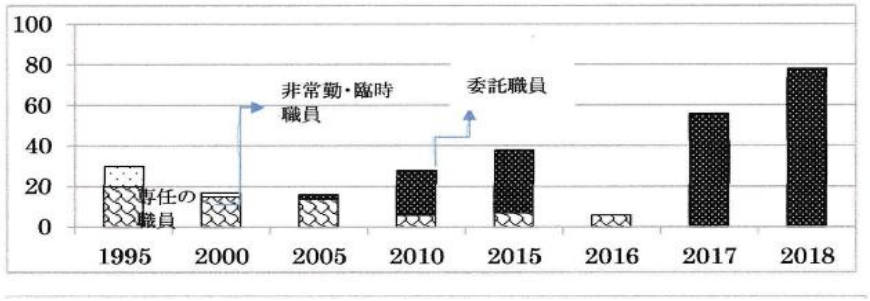
調布市立図書館の職員数



◎職員の特徴

調布市は司書制度を敷いている。窓口委託がはやっているが、窓口は利用者の要望を引き出し資料につなげる最前線。だからベテランの司書も立つ。窓口委託をしないのがポリシー

◎職員の特徴

大和市は一九九五年度以降、司書率は**40**％前後。二００五年度から窓口委託が導入された。二０一七年度以降は指定管理会社のみの職員となる。

大和市立図書館の職員数